

愛知県ハンガリー友好協会会報

2011年5月号

《ハンガリーフェスティバルin愛知》“リストの音楽と食文化を楽しもう！”

若葉の鮮やかな季節となりました。連休はいかがお過ごしでしょうか？

愛知県ハンガリー友好協会 in 愛知
ハンガリーフェスティバル
リストの音楽と食文化を楽しもう！

2011年
6月19日(日)
13:30~16:30
名古屋国際センターホール

1 13:30~14:00 (演奏)
「ハンガリー狂詩曲第2番」
「ラ・カンパネラ」
「愛の夢」
「超絶技巧エチュード『マゼッパ』」
ピアノ演奏・富田智容子

2 14:00~15:00 (講演)
ドナウの薫り～
悠久の食文化
「国民的料理グヤーシュ/ペルケルト/パプリカーシュの歴史」
渡邊昭子 (大阪教育大学准教授)

3 15:00~16:30 (交流会)
おいしいハンガリーを
見つけよう!!
(スナックと飲み物)
グヤーシュスープ・・・料理:マトウシュ・ロランド
ハンガリーサラミ+パン
ハンガリーのお菓子 ポガーチャ
ハンガリーワイン他 飲み物

さて、6月19日(日)13:30から16:30まで、名古屋国際センターホールで開催いたします「ハンガリーフェスティバルin愛知」“リストの音楽と食文化を楽しもう！”の内容が下記のように決まりました。とても盛り沢山のプログラムで、きっとお楽しみいただけることと思います。交流会では美味しいグヤーシュスープ・サラミ・ワインなどのサービスがあります。

ハンガリーの子供たちの絵画は、センテンドレにあるセント・アンドラーシュ小学校の生徒の作品46枚を展示します。刺繍サークルの作品も新作が並びます。皆様のご家族お友達と一緒にご参加ください。

13:30~14:00 (演奏) 生誕200年リストの調べ
「ハンガリー狂詩曲第2番」
「ラ・カンパネラ」「愛の夢」
「超絶技巧エチュード『マゼッパ』」
ピアノ演奏・富田智容子

14:00~15:00 (講演) ドナウの薫り～悠久の食文化

「国民的料理グヤーシュ/ペルケルト/パプリカーシュの歴史」

渡邊昭子 (大阪教育大学准教授)

「ハンガリーサラミー150年の秘密を解き明かす」

ナジ・アニタ (ピック社東京事務所 アシスタント)

「ハンガリーワインーエグリ・ビカベール&トカイ・アスー」

金澤弘樹 (スズキビジネス特販事業部)

15:00~16:30 (交流会) おいしいハンガリーを見つけよう!! (スナックと飲物)

グヤーシュスープ・・・料理:マトウシュ・ロランド

ハンガリーサラミ+パン

ハンガリーのお菓子「ポガーチャ」 ハンガリーワイン他 飲物

展示:ハンガリー刺繍サークルの作品展

ハンガリーの子供たちの絵画展 (センテンドレのセント・アンドラーシュ小学校)

《 ハンガリーでも募金活動 》

早稲田みか（大阪大学教授）

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災した人々を援助しようと、ハンガリーでもさまざまな活動が行われています。ハンガリー・日本友好協会会長のヴィハル・ユディットさんの情報によると、震災直後にたくさんの友好協会メンバーから日本の友人を心配するメールがあり、募金活動をすることを決定、はやくも17日には募金用の銀行口座を開設、活動を始めました。

3月22日には、友好協会メンバーが在ハンガリー日本大使館を訪れ、哀悼の意を表明、お見舞いの記帳をしました。

4月27日には、ハンガリー科学アカデミーのホールにてチャリティーコンサートが開催されました。

「桜の花が血を流している」と題されたコンサートの案内には次のように書かれています。

「日本の人々はいま大変な困難のなかにあります。これまでに経験したことのない巨大な地震と津波に襲われ、福島原発が危機的な状況に陥りました。多くの人が苦しんでいます。今こそ、一致団結して日本の人々にこれまでの恩返しをするときです。チャリティーコンサートの収益はすべて、日本のハンガリー友好協会をとおして、被災者に寄付されます。ハンガリー科学アカデミーはホールを無料で提供しました。音楽家たちも無料で協力してくれます。」

演奏者のなかには、リスト・フェレンツ室内管弦楽団、アマディンダの他に、私たちになじみの深いファルバイ・シャーンドルさん、サバディ・ヴィルモシュさん、オンツァイ・チャバさんが名を連ねています。呼びかけ人は、ヴィハル・ユディットさん、シュディ・ゾルターンさん、サバディ・ヴィルモシュさんです。

4月30日、5月1日の両日には、ホップ・フェレンツ美術館およびラート・ジェルジ美術館において日本フェスティバルが催されました。日本文化を紹介する講演（日本庭園、盆栽、禅、俳句、アニメなど）やデモンストレーション（茶道、生け花、折り紙、着物、書道、日本料理など）が行われ、入場料がすべて寄付されます。

友好協会以外にもリスト音楽院の学生を中心にしたチャリティーコンサートや、日本語を学んでいる学生たちによる街頭募金活動（写真参照）など、さまざまな支援活動が行われています。



ハンガリー日本友好協会セーケシュフェヘルヴァール支部会長のシュヴェルリホフスキ・ラースローさんから震災の翌日3月12日に次のようなメッセージが届きました。「日本を襲った大震災に大きな衝撃を受けました。日本国民、被災された方にお見舞い申し上げます。」

また、ハンガリー刺繍のイロンカ先生からも届きました。

「日本を襲った大震災に心を痛めています。あなたたちのグループは被災地から離れていると知り、少し安心しました。ハンガリー全国の人々が同情しながら、映像を見たりニュースを聞いています。大きな大きな災害で、計り知れない損害、苦しみ、問題をとても悲しく思います。優秀、勤勉、親切な日本の皆さんに深く同情しています。あなたたちの苦しみ悲しみの一部を分けてもらえたらいいのに……。強い精神を持ち、力強い体力、気力、希望を持って復興できるよう願っています。

日本と日本人に神様のご加護あれ！ 悲しみながら…イロンカ」

《 セピアオレンジ彩(いろ)との別れ 》 ドナウ通信 2006年新春号より

賀来芳弘（元ハンガリー駐在員）



ゲレルトの丘から見たブダペスト市内

の採用、設備導入、教育等々と生産、毎日が見知らぬ国での戦いであった。その中で心安らかにしてくれたのは音楽文化との出会いである。その頃からブダペストの街並みは、モノクロからセピアオレンジ彩(いろ)へと変わっていった。夜の街並みを美しく仕上げる街灯とライトアップ。オレンジ彩(いろ)だけでは明るすぎる。歴史がある分だけセピア色を感じる。

音楽文化は実に私の心をわくわくさせてくれた。クラシック音楽コンサート、バレーに行くたびに音を楽しんだ。かきこぼって音楽を楽しんだのではない。2005年3月に新設された国立コンサートホールで行なわれた五嶋みどりのシベリウス作曲バイオリン協奏曲は、弾きはじめて

とうとうブダペストを去る日が目の前に迫ってきた。楽しかった思い出だけを胸の奥にしまって帰ろうと思う。ウィーンの街並みが色彩色とするならば、モノクロの街に近いと自分の中では感じていた。2000年の寒さが本格的になりはじめた秋、それが私の二度目の海外生活のスタートである。新たに製造会社の設立登記、土地の購入、工場建設、従業員



ベートーベンが弾いたピアノ（ベートーベン記念館）

十分間は鳥肌が立っていた。もともとクラシック音楽に興味があったわけではない。五嶋みどりのテレビ番組のビデオを借りて、彼女の演奏するバイオリンの繊細だが強い音に惹かれた。オーケストラの楽しみは音の複雑性である。全ての楽器の音が組み合わせられて情景が生まれる。ある人が小澤征爾の音は体にまとわりつくと言ったが、一度だけ背中の方から聞こえた音にふとふり返ってしまったことがある。

指揮者小林研一郎氏との出会いも私にとっては生涯忘れえぬできごとである。身近で感じる氏の音に対する感性の素晴らしさは到底書き尽せるものではない。また、譜面台を置かないというマエストロの生き方は若い音楽家にとっては何にも換え難い教訓であった。稲川大使など関係者のはからいで、ホームコンサートに、二度お越しいただいた。指導は譜面を見ないことから始まる。暗譜ができていないことは弾き込んでいない、感性を議論する以前の課題であった。この時を境に



コバケンに指導を受ける大竹由夏さん

最後の贈り物は、五年に一度ワルシャワで開催されるショパンコンクールに行くことができたことである。多くの日本人の若者達が参加し、結果として日本人は四位に二名入賞を果たした。優勝はポーランド人であった。ショパンが得意とする線香花火のごくごく小さな火玉をちりばめたような音を躍動的に、かつ淡々と弾く姿はいにしへのショパンを垣間見るようであった。



目にもまぶしい広大なひまわり畑



糸見邸でコバケンと（右が著者、左が妻）

ホームコンサートでは譜面が消え始めた。そしてブダペスト在住の若い日本人演奏家が世界各地のコンクールで賞を拝受しはじめた。目に見えて進歩の跡がわかるようになってきた。我々聴衆にとってはうれしい限りである。



ポーランドワルシャワのショパンコンクール会場

そして、この素晴らしい思い出は多くのよき友人、若い才能ある演奏家、その人たちをやさしく包んでくれている在住の方々からにはほかならない。知り合えたことで私の人生に新たな一ページを書き加えることが出来たことを感謝したい。セピアオレンジ彩(いろ)はもうモノクロには戻らない。

《ハンガリーワイン (16) -Gundel の Merlot、国際品種 (1) - 》

伊藤憲昭 (大仲さつき病院医師)

ハンガリー語を真面目に学習しているならば、ハンガリーを代表する 1894 年創業のレストランである「Gundel」の名前は御存知でなければならない。

私は Gundel に行ったことはないが、日本で数少ないハンガリー料理店である「Zsolnay(西麻布)」で、このワインに出会った。その店は、現在は移転して「Az Finom(神宮前)」としてハンガリーの味を提供しているらしい。私は出張のついでに Zsolnay 常駐のソムリエ君に質問したり無理を言ったりして、ハンガリーのワインと料理を覚えてもらった。会員で「Az Finom」に遠征される方がいれば、是非とも一報をお願いします。

Merlot という品種は国際品種である。フランスのボルドーで数十万円のワインにもなる Chateau Petrus は例外として、世界全土で栽培されて親しまれている。土壌は粘土質を好み、酒質は柔らかいタンニンの「優雅さ」が特徴である。同じ品種であるものの、①DNA の相違、②気候の相違、③土壌の相違、④栽培方法の違い、⑤醸造方法の相違、によって全くの別物のワインになる。

さて、今回のワインの生産者は不明であるが、おそらく「Gundel」が契約している匿名の醸造元の一つだろう。Eger の土壌は複雑であるが、要は堆積岩が主流である様子であり、詳細は「ワインの国 ハンガリー：澤辺小友美・他訳/美術出版社」を参照して頂きたい。



ハンガリーの Merlot は、歴史は浅くて 1960 年代に登場。本当に国際的に通用するのは今世紀からといても良い。結果的には今回は「あれれ???' というワインであり、同じお金を払うならば、チリや USA、南仏のワインを私は買いたい。

**2004 Gundel Egri Merlot //Eger/12.5%vol/
(有)ハンガリーフーズサプライ/1575 円**

淡い石榴石色。端は幅広に、くすんだ赤小豆色。縁は少しオレンジおびる。足はゆっくりと疎に涙。小さい黒系果実と、ラズベリーや蕾つき熟イチゴ香。少し厚みのある渋味に、少し膨らみあるボリューム感。酸はベリー系で、最後の手前まで伸びる。タンニンは、熟れきって痕跡を残す形で、なめらか。果実味は、イチゴジャム系だが甘味が主に残り、特徴に乏しく、中身がスケスケに抜けている。酒質は酸が主で、後から甘味が来るが、無骨な個性。しかし口当たりは軽くて抵抗ない。面白くはないが、悪くもなく、ダラダラといつまでも飲んで、ハンガリー料理の大盛りには合いそう。イメージとしては、2007 年の Bourgogne Rouge A.O.C. (フランスの一般的な Pinot Noir) の風格に近い。

《 新刊紹介 》

ニューエクスプレス ハンガリー語 《CD 付》

早稲田みか、バルタ・ラースロー 著



見やすい・わかりやすい・使いやすい！
会話から文法へ——はじめての入門書◆決定版。
「ドナウの真珠」と呼ばれる首都ブダペスト。
奥深いマジヤール文化に言葉から入ってみよう！

ハンガリー語はフィン・ウゴル語派に属し、主としてハンガリー共和国で使われている言語です。ヨーロッパの中央部に位置しながら、その周辺諸国で使用されている言語とは文法や語彙が全く異なりますが、表記はラテン文字で、発音も特に難しいものはありません。首都ブダペストは「ドナウの真珠」と形容される美しい都市で、荘厳華麗な歴史的建造物が立ち並んでいます。リストやバルトークなどの偉大な音楽家、ヘレンドをはじめとする名窯、パプリカを使ったハンガリー料理……。

誇り高きマジヤール文化に、言葉から親しんでみませんか？

《 リスト生誕 200 年記念 》

Liszt Ferenc は 1811 年 10 月 22 日生まれ。
作曲家リストの生誕 200 年を記念し、ブダペストのフェリヘジ国際空港は、Ferenc Liszt (フェレンツ・リスト) 国際空港と名称を改めました。
インターネットで「リスト生誕 200 年記念」を検索してみると、ハンガリーや日本で沢山のコンサートや催し物が企画されています。コンサートには中々出かけられませんが、CD、FM、TV などで聴いてみてはいかがでしょうか？ 今日 FM で「愛の夢」と「ピアノソナタロ短調」を演奏していました。これから秋まではたくさんのプログラムがあるのでは……。
ハンガリーファンとしてはとても嬉しいことです。



《 白にんじんとパプリカ 》

4 月 10 日に種を蒔きました。春なのに例年よりとても寒いので、白にんじんは不織布で覆い、パプリカはビニールのトンネルで寒さ除けをしました。最近の雨のおかげで、白にんじんは見事に発芽しました。パプリカはばらばら発芽しかけています。早く暖かくなってほしいですね。